

目次

I 章

一口腔単位の治療と マルチディシプリナリーアプローチ……………7

1. 患者利益と医療の質……………8
2. 一口腔単位の治療とマルチディシプリナリーアプローチとは……………12
3. 歯科治療の三大要素（炎症のコントロール・力のコントロール・審美性）……………14
4. 低侵襲治療（MI）……………15
5. 低侵襲治療（MI治療）とは……………16
6. 補綴的介入のリスク……………18
7. 失活歯の予後と歯根破折……………23
8. 歯根破折の予防……………24
9. 歯列不正がもたらすリスク……………26
10. 一口腔単位の治療の臨床的な評価基準……………30

II 章

リスク回避のための治療の選択肢……………43

一つのストーリー（Decision-Tree 1）

～下顎第一大臼歯う蝕から上顎前歯フレアアウト、そして無歯顎に至るまで～……………44

Stage 1 :

「下顎第一大臼歯う蝕」から

「下顎第一大臼歯 抜歯」に至るまでの治療のリスクと選択肢……………54

- Stage1- A 下顎第一大臼歯う蝕：MIレジン修復……………56
- Stage1- B 下顎第一大臼歯う蝕：インレー修復……………59
- Stage1- C 下顎第一大臼歯う蝕：歯髄保存……………63
- Stage1- D 下顎第一大臼歯う蝕：抜髄……………66
- Stage1- E 下顎第一大臼歯う蝕：感染根管処置……………72

- ESSENCE 根管形態を理解する……………70
-  形成の基礎知識……………76
- FMC作製手順……………82

Stage 2 :

「下顎第一大臼歯 抜歯」から

「下顎第二大臼歯 近心傾斜 & 対合歯挺出」,

「小白歯 近心傾斜 & 遊離端欠損」に至るまでの治療のリスクと選択肢……………90

- Stage2- A 下顎第一大臼歯 欠損：インプラント治療……………92
- Stage2- B 下顎第一大臼歯 欠損：ブリッジ治療……………98
- Stage2- C 下顎第一大臼歯 欠損：パーシャルデンチャー治療……………108
- Stage2- D 下顎第二大臼歯の近心傾斜 & 対合歯の挺出：
MTM (Upright) & 対合歯の挺出处置……………111
- Stage2- E1 大白歯遊離端欠損：インプラント治療……………131
- Stage2- E2 大白歯遊離端欠損：パーシャルデンチャー治療……………147

- ESSENCE 下顎第一大臼歯欠損 ブリッジ作製手順……………103
-  下顎第一大臼歯欠損「接着性ブリッジ」形成手順……………105
- Upright spring ベンディング手順……………125
- L-loop ベンディング手順……………128
- インプラント診断用ステントの作り方……………143
- クローズトレー法によるプロビジョナルレストレーション作製手順……………145
- オーブントレー法による最終補綴物の作製手順……………146
- 金属床義歯の作製手順……………156
- アルタードキャストテクニクの手順……………158

Stage 3 :

「小白歯近心傾斜 & 遊離端欠損」から

「低位咬合 & 下顎前歯挺出 & 上顎前歯フレアアウト」に至るまでの治療のリスクと選択肢……………162

- Stage3- A 小白歯近心傾斜：MTM (Upright) ……164
- Stage3- B 大白歯・小白歯遊離端欠損：インプラント治療、パーシャルデンチャー治療……………168
- Stage3- C1 低位咬合 & 下顎前歯の挺出 & 上顎前歯フレアアウト：咬合挙上……………173
- Stage3- C2 低位咬合 & 下顎前歯の挺出 & 上顎前歯フレアアウト：補綴治療（削合）……………177
- Stage3- C3 低位咬合 & 下顎前歯の挺出 & 上顎前歯フレアアウト：矯正治療……………179

- ESSENCE Basic utility arch ベンディング手順……………182
- 

Stage 4 :

「上顎無歯顎 & 下顎遊離端欠損」から

「上顎前歯部骨吸収・フラビオガム & 下顎臼歯骨吸収」に至るまでの治療のリスクと選択肢……………188

- Stage4- A 上顎無歯顎 & 下顎遊離端欠損：
パーシャルデンチャー治療・インプラント治療……………190
- Stage4- B 上顎前歯部骨吸収・フラビー & 下顎臼歯骨吸収：精度の高い補綴治療……………196

III 章

小滝歯科医院の取り組み

～マルチディシプリナリーアプローチを支えるチームアプローチ～……………203

1. 診療の流れ（診査・診断・治療計画）……………204
2. 治療のチェックポイント……………211
3. マルチディシプリナリーアプローチのためのシステム作り……………213
4. チームアプローチ……………219